



福高だより

平成 23 年 12 月 15 日
第 126 号
発行 福知山高校

合格体験記

大学・専門学校で推薦、AO 入試の合格発表が続いています。3年間の努力が実り、夢をつかんだ先輩の声をお届けします。

同志社大学 神学部 神学科 合格

塩尻 千央 (綾部市立綾部中学校出身)



私が、高校生活でやっておいて良かったと思う事は、読書です。本を読む習慣がないと、小論文のための勉強が大変になると思います。また、日頃から社会問題などについて興味を持ち、それについて調べたり、親や友達と話したりしてみるのも良いと思います。

次に後悔したことは、入試についてあまり勉強してこなかったことです。私は、進路学習の授業をおろそかにしてきました。その結果、3年生になってからわからないことだらけで、両親や先生、友達に頼ってばかりになってしまいました。私のように「まだ先の事だから」と思い、進路学習をおろそかにしている人がいるかもしれませんが、3年生になってからでは遅いですし、周りにも心配や迷惑をかけます。進路学習にもまじめに取り組み、受験に興味を持つきっかけにしてください。これから受験をむかえるみなさん、これから大変だと思いますが、頑張って志望校に合格してください。

兵庫県立大学 理学部 生命科学科 合格

中尾 知美 (福知山市立成和中学校出身)



私は部活動をしていなかったため、部活動と勉強を両立している人を見ると勉強を頑張らないといけないという意識がありました。だから私は、1年生の秋からしっかりと勉強時間を確保し、勉強に取り組みました。また、部活動をしていない分、自由な時間があつたので、ボランティア活動やインターンシップ、看護体験など多くの活動に参加し、貴重な体験ができました。

私が受験を通して感じたことは、人の支えでした。面接練習や小論文の添削など本当に多くの先生にお世話になりました。また、多くの友達にも励ましてもらいました。たくさんの人の支えがあつたからこそ本番でも頑張ることができたのだと思います。

高知大学 理学部 理学科 合格

鍋島 美智 (福知山市立大江中学校出身) 吹奏楽部



私は、高校から吹奏楽部に入り、今年の8月まで部活動中心の生活をしていました。勉強と部活動の両立は私が入学前に想像していたほど簡単なものではありませんでした。勉強のリズムを確立するために、私は授業を大切にしようと思いました。たとえば予習復習が間に合わなくても、宿題や日々の演習はするとか、授業は集中するなどです。当たり前のことですが、授業中に集中することで授業の質や内容の理解度が高くなります。

私は、推薦入試のための対策を始めたのは遅い方だったと思います。しかし時間があえば、何度も先生に面接や口頭試問の練習をしていただきました。面接練習は、すればするほど自信が付き、本番もいつもどおりにできました。私が合格できたのは、支えていただいた先生方、家族、お互いに励まし合いながら頑張ってきた友達がいたおかげです。

3年間吹奏楽を続けてきて、辛いことも悩んだこともたくさんありました。しかしやりきったあとの達成感は、辛かったことをすべて忘れられるくらい気持ちの良いものです。もしも、今壁にぶつかっている人がいれば、今自分が頑張っていることをとにかく続けてみてください。今すぐに結果が出なくても、頑張っていることを評価してくれる人はいるし、やった分だけ自分にとってプラスになるものが返ってくると思います。

大阪調理製菓専門学校 Wライセンスシステム 合格

森 萌香 (福知山市立南陵中学校出身) 吹奏楽部



私が高校の3年間で頑張ったことは部活動です。中学校で吹奏楽部に入っていたこともあり高校でも吹奏楽部に入部しました。中学校のころとは違い、練習時間が長いし内容も難しいので、だんだん難しくなる勉強との両立はすごく大変でした。しかし、3年間吹奏楽部で頑張ってよかったと今は思います。

私は、これから受験に向かっていくみんなに、自分でやると決めたことはやり通す、ということを頑張してほしいと思います。これは受験に向けてだけでなく、これからの人生で役に立つことだと思います。私の場合は、高校1年生のときに、吹奏楽部に入って頑張ろうと決めたので、3年間やり通すことが目標でした。しかし、練習時間の長さや厳しさ、中学校のころとは違う生活に慣れることができずに、何度もやめようと思うことがありました。

しかし、3年間やりきった今、すごく達成感を感じています。大変なことはたくさんあると思いますが、頑張ったことは必ず役に立つと思います。そして、部活動でつらい事を一緒に頑張ってきた仲間となら、受験もきっと乗り越えることができると思います。最後まで諦めずに頑張ってください。

京都府立大学 公共政策学部 福祉社会学科 合格

植村 真妃 (福知山市立桃映中学校出身)



私が後輩の皆さんにはっきりと言えることは、「最後まで諦めてはいけない」ということ、そして、1年生のときからの積み重ねが3年生になったときに大きく自分に返ってくるということです。日々の演習や提出物はもちろん、部活動やボランティア活動など小さな事でも、3年で進路を決めるときに選択肢が広がります。私も3年生になるまでは、何気なく学校生活を送ってきましたが、私のこの2年間は決して無駄なものではなかったと強く思いました。

福知山高校は生徒自身が成長していけるような活動も多いと思うので、積極的に参加して力をつけてください。高校3年間はあっという間なので、学校生活を悔いの残らないように過ごしてください。そして、進路実現に向かって最後まで諦めずに頑張ってください。

立命館大学 政策学部 政策学科 合格

楠田 恵梨 (福知山市立桃映中学校出身) バドミントン部



私は、定期考査では点数がとれても、模試では全くとれませんでした。みんながどんどん伸びていくのに、私だけ伸びずにとても悩みました。でも、ある先生が、「毎日継続していたら必ず伸びるから頑張れ。」と言ってくれたこともあり、特に夏休みには力を入れて頑張りました。すると、その後の模試では点数が上がり、とても嬉しかったです。だから、今伸び悩んでいる人がいたら、辛いかもしれないけれど、自分に負けず、絶対に諦めないでほしいです。努力は必ず報われます。

私が1番苦手なことは、文章を書くことです。でも、私の大学の試験は、志望理由書を原稿用紙4枚に書くことでした。私にとってそれは本当に大変で、先生のところには何度も通い、指導していただきました。また、そのときに進路の相談やその他たくさんのことを教えていただき、とても勉強になりました。私はいろいろな方々から支えていただき志望校に合格することができました。自分1人で合格するのは無理です。たくさんの支えがあったからこそ頑張れたのだと思います。これから受験を控えている人は、頼れる人には精一杯頼り、一方で感謝する気持ちを忘れないことが大事だと思います。

浜松医科大学 医学部 看護学科 合格

高山 理央 (福知山市立成和中学校出身)



私の推薦入試は、小論文と面接でした。小論文は英文なので、英語が苦手な私にとってはかなり厳しかったです。先生にお忙しい中、週2~3回のペースで小論文や面接の指導をしていただきました。日によっては大変遅くまで指導してくださり、とても感謝しています。先生方には最後の最後まで相談にのっていただき、背中を押していただきました。試験当日は緊張もせず、むしろ楽しいとさえ思えました。そう感じたのも毎日英文に取り組み、自分の思いを伝える練習をしてきたからだだと思います。合格を報告して、喜んでくださった方々の顔を忘れることはできません。たとえ苦手だとしても、たとえ無理だと思っても、やりきる勇気を持ってください。挑戦する勇気を持ってください。決して一人で闘っているではありません。熱意さえあれば、皆が力を貸してくれます。

京都府立大学 文学部 日本・中国文学科 合格

塩見 愛 (福知山市立桃映中学校出身)



私が京都府立大学を受験するにあたり、やっておいてよかったと思うことは、志望校を早めに決めたことです。志望校を早めに決めることの利点の1つは、その大学を訪れるチャンスが増えるということです。自分で大学に行ってみることで、大学内の雰囲気に触れることができ、実際に学舎を見ることで「ここで勉強したい!」と、モチベーションアップにもつながります。

選んだ大学がどこであれ、受験勉強は必要不可欠です。私は筆記試験のみでしたが、過去問を解いて先生に添削、指導していただきました。もし実力不足や不安を感じても、自分で行きたいと決めた大学なら、合格するための努力はできるはずで。応援しています。

兵庫県立大学 理学部 物質科学科 合格

赤山 類 (福知山市立南陵中学校出身) 卓球部



私は、「やりたいことは絶対にやる。」をモットーに、たぶん人の何倍も自由に生活を送っていたと思います。少し表現を変えると「自分の意志を大切に生活を送る。」ということです。これは、勉強や部活動をする上でも、そして進路を決める上でも重要になります。私のポリシーは「どんなときにも、友達や先生と元気に接することのできる自分を保つようにする。」ということです。これは私の場合ではありますが、ぜひ皆さんにもためしてほしいと思っています。当然、友達や先生とより仲良くなれます。そして何より、相談にのってもらったり、勉強を教えてもらったりできる関係になることができます。私は推薦入試で合格しましたが、その影には友達や先生の応援が大きな存在としてありました。1人では合格できなかったと思います。

最後に、皆さんがこれから「大変だな」と思ったときに相談できる仲間をつくり、不安や心配を抱え込まず、万全のコンディションで受験に向かってほしいと思います。また、誰かの力になってあげてください。きっと良い結果が出るはずです。頑張って受験を乗り越えてください。

京都府立大学 生命環境学部 環境デザイン学科 合格

小畑 紗良 (南丹市立美山中学校出身) ソフトテニス部



先輩や先生からのアドバイスは「毎日授業はおろそかにせず、どんなに部活動が忙しくても定期テストの勉強はしっかりすること」というものでした。だから毎日、長距離通学の時間を有効に活用し、定期テストの前には部活動を勉強モードに切り換え、集中して学習することを心がけました。

2年生のとき推薦で京都府立大学を受験すると決め、3年生で部を引退してからは本格的に受験体制になりました。推薦入試対策では、英語、作文、面接と先生方が全力でサポートしてくださいました。毎日の作文や英訳の添削に加えて、本を貸して下さったり、専門的な資料を提示して下さったりしました。

受験を通して私は、悩んだときは1人で考え込まずに先生や先輩に尋ねたりして、こちらから積極的に発信することの大切さを学びました。福知山高校は、そのときどきの自分にあつた的確なアドバイスやサポートをしてもらえる学校です。みなさんも志望校目指して頑張ってください。